

＝ 第1回兵庫県中学生サッカー大会 ＝

瓦木中強し立花中を下す

第1回兵庫県中学生サッカー大会は去る6月8日、15日の2日間県下11地区を勝ち抜いてきた11校の代表で、春の中学校No.1を競った。

決勝は北播代表の緑ヶ丘中を4対0でねじ伏せた尼崎代表の立花中と淡路代表の辰美中を1対0でくだした西宮代表の瓦木中の対戦となった。

立花中は前半8分野上が相手バックスのクリアスを右スミにシュートし1点をリードし、その後気力あふれた試合が続いたが両チームとも得点できず1-0で前半終了となった。後半開始直後（1分）瓦木中は光崎のシュートを立花中GKがはじいたボールを中村が走り込みプッシュして同点とした。この1点で試合の流れが変わり瓦木中は優勢に戦った。

瓦木中は、キャプテン三牧の適切な指示で余裕をもっていた。13分中谷からのパスを走り込んだ奥井が左足でシュートを決めて2対1とリードした。立花中もよく走りよく攻めたが瓦木中GKの好守にはばまれ得点できなかった。また、立花中は攻撃の要である橋本が瓦木中の房田に完封されたのがひびいたようである。終了間際、瓦木中は左コーナーキックから中谷のヘディングでだめ押しの3点目を入れ優勝を飾った。

神戸地区代表の六甲中は1回戦で北播代表

の緑ヶ丘中に敗退しているがこの原因は何か。1つに2〜3人のマークを強引に突破できるFWが少ない。2つにキック力も劣る。3つに長い距離を走り込みパスを受け1対1での個人技で決めるという力強さとテクニックを兼ね備えている選手が少ない。といったところが目についた。（白谷）

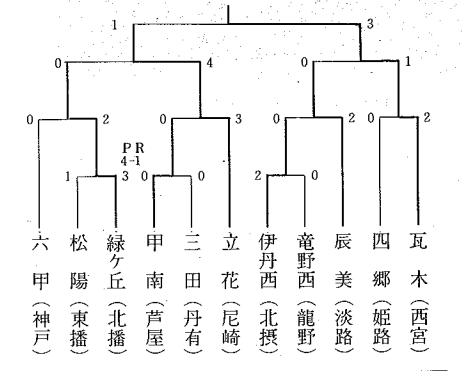
試合結果は次のとおり。

優勝 瓦木中（西宮）

準優勝 立花中（尼崎）

3位 辰美中（淡路）・緑ヶ丘中（北播）

▷決勝 瓦木3 {1-1 2-0} 1立花



～ 国民体育大会少年の部候補選手しぼられる ～

兵庫を代表する若駒は...

昭和55年度 国民体育大会少年の部兵庫県代表候補選手（高体連関係分）が選出された。○内は学年

（GK）兼本正光③ 吉田竜夫②以上飾工、（DF）藤本和彦③北須磨、原勝彦③三原、野瀬潤徳③東灘、湊邦三③ 森野和行② 田中誠人②以上御工、丸井正寿②御影、妹背孝哉②六甲、上谷等①伊丹西、小松公平①市西（MF）田中浩一③県芦、新名宏章③県尼、

八木清吾②御工、今藤竜介②伊丹北、中野操②六甲、古谷大治②小野、落合一雄②東灘、西中伸神①三原。

（FW）井若函二③ 三好浩一③ 祖母井章夫② 永嶋昭浩①以上御工、米田尊行③伊丹北、小丸一志③三原、増田良作③浜坂、山田勝則③ 塩田芳丸①以上須磨、内山修一②県芦、和田昌裕①御影。この後、クラブチームからも選考される。

兵庫県少年サッカー技術講習会

昭和55年度兵庫県少年サッカー技術講習会とき 7月26日(土)～27日(日)

場所 竜野市、竜野高等学校 宿舍 国民宿舎 赤とんぼ荘

参加資格 県下各都市から小学6年生 各チームのリーダー 一地区 20人

講師 黒田和生（JFAコーチ） 一北四郎（JFAコーチ）

内容 サッカー技術の指導 地区対抗戦

～神戸市協会だより～

社会人運営会議日程

昭和55年度神戸市サッカー協会社会人委員会の運営会議日程は次のとおりです。

55年7月17日、8月21日、9月18日、10月16日、11月20日、12月18日、56年1月22日、2月19日、3月19日。

場所は、いずれも登山研修所です。時間は午後6時30分からです。

関正スポーツ

東灘区住吉宮町4丁目6-13 ☎078(821)8449

国鉄住吉駅南側西へ20m

灘スポーツ

灘区倉石通5丁目1-8 ☎078(861)4671

市バス水道筋6丁目上がる100m東側

塩谷スポーツ

兵庫区大開通7丁目5 ☎078(576)0870

バンドウ化学南

MEN'S SHOP MAC

三宮センター街店 ☎078(391)0895

プレザージュ、トアロード店 ☎078(391)0896

神戸・新聞地店 ☎078(575)7688

ワールドスポーツ

東灘区深江北町4丁目7-3 ☎078(453)2186

阪神深江駅北側信号西

オウビ

葺合区琴緒町4丁目7 ☎078(242)3667

国鉄三宮駅北側神戸経理専門学校斜め前（田上ビル1階）

スメラ

湊川店 湊川プラザ2階 ☎078(511)2234

鈴蘭台店 ダイエー西側 ☎078(592)0470

加茂トアロード店

生田区三宮町3-2 ☎078(392)0234

国鉄元町駅南側東へ100m

スポーツワールド33

生田区三宮町2丁目1 ☎078(332)7332

マヤスポーツハウス

灘区森後町1丁目4-6 ☎078(841)8811

国鉄六甲道駅北 兵庫信用金庫六甲支店山側

ポートピア'81がんばれ

―神戸市役所全国自治体大会へ―

この8月島根県益田市で第10回全国自治体職員サッカー大会が開催されるが、関西代表として神戸市役所、大阪市役所、京都市役所の3政令指定都市が、参加25チームから勝ち残り出場することになった。

神戸市役所チームは、10年前の第1回東京大会2位、第3回藤枝大会3位、第8回神戸大会4位と優勝の経験はない。しかし、今年の試合にのぞむ態度は第1回大会と同じ、いやそれ以上に燃えている。ポートピア81を来年にひかえ、何としても大優勝旗を神戸へとニューフェイスもロートルも力を合わせ、神戸の伝統である粘り強い調和のとれたサッカーをと部員一同連日猛練習に汗を流している。

～ 兵庫県協会だより～

新役員ですよろしく

会長	砂田重民	中村寿男
副会長	赤川幸一	堀保彦
理事長	高砂嘉之雄	浅北保五郎
常務理事	吉江経治	前野正四郎
事務局	局長 中村 寿男	事務局長 堀 保彦
事務局	庶務担当 浅北 保五郎	経理担当 前野 正四郎
事務局	登録担当 前野 正四郎	広報・渉外 中村 雅佑
事務局	企画担当 松本 村雅	施設担当 五島 祐治郎
事務局	財務委員長 高橋 敏雄	技術 副委員長 西 林 恵
事務局	審判委員長 高橋 敏雄	規律 西 林 恵
事務局	医事協会 皆 木 吉前	都市協会 藤原 穎夫
事務局	副委員長 河 北 力	第一種委員長 蔵 河 内 淳
事務局	社会人担当 河 内 淳	大学高専 佃 中 谷 元
事務局	第二種委員長 佃 中 谷 元	高校担当 白 石 幸 夫
事務局	クラブ 白 石 幸 夫	第三種委員長 師 田 二 郎
事務局	中学校担当 師 田 二 郎	クラブ担当 蔵
事務局	第四種委員長 蔵	第五種委員長

個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として50円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。

〒657 神戸市葺合区八幡通2-5磯上公園
神戸市サッカー協会 078-232-0753

なお、数人分まとめて申し込まれる場合は割引がありますのでご連絡ください。

月刊 神戸のサッカー

1980 7月号

発行所 神戸市サッカー協会 神戸市葺合区八幡通2-5 磯上公園 〒651 ☎(078)232-0753

発行人および編集人 加藤 正信 神戸市灘区上野通6丁目3-12 〒657 ☎(078)861-3100

毎月1回10日発行 購読料1部30円

御影工高初優勝

気力充実のプレー展開

県高校総体終わる

第24回兵庫県高校総合体育大会兼昭和55年度全国高校総合体育大会サッカー競技県予選ベスト16校成績表

▷決勝（6月9日 磯上）

御影工高2 {1-1 0-0 0-0 0-0 1-0} 1須磨高

県 芦 屋 西 宮 東 吉 川 社 須 磨 神 戸 甲 北 西 脇 工 県 西 宮

先制の御影工高初優勝（白19番）

大会前の予想で優勝候補の第一に推されていた御影工高が優勝したのであるから、順当な大会であったように見えるが、今年の大会も波乱の多い大会であった。

御影工高ははじめの3試合は順当に楽勝したが5回戦の対市尼崎戦に2-1の辛勝、以後北須磨に1-0（延長）準決勝の伊丹北は2-1と1点差のゲームの連続で、ゲーム内容もバツとしないものであった。

決勝戦で御影工高に互格の戦いをした須磨は新人戦では市内予選で御影工高に破れたため県大会に出場できず、今大会に向けてじっくり調整し、次々と強敵を倒し、準々決勝の県西宮、準決勝の社にいずれも逆転勝ちしての決勝進出であった。

準決勝で敗れた伊丹北は、新人戦に続いてのベスト4入りをはたし、再度の御影工高への挑戦であったが守りの弱さで涙をのんだ。もう一つの社は新人戦ベスト8からさらにたくましくをつけて、西宮東に対しあざやかな逆転勝ちを収めたのが印象的であった。

ベスト8に入った北須磨、福崎、西宮東、県西宮の中では、福崎を除く3校は前記の4校におとらぬ力をもっていたが勝ち運に恵まれなかった。特に北須磨は御影工高に対し延長にもちこむ大健闘が賞讃される。着実に実力をつけており今後も期待できそうだ。

今大会全体を顧り見て言えることは、一部のマナーの悪いチームに対し、大会本部も審判員もかなり厳しい態度で臨み、退場や警告の処分を受ける選手が続出したが、今後ともチームや個人に対し競技規則を尊重、厳守させる指導の必要性を痛感した。

春の近畿大会での兵庫勢の惨敗のショックから立直って兵庫の高校サッカーのレベルアップに意欲を燃やす指導者によって、気力の充実したゲームが次々と展開され、従来多かった大差のゲームが少なかったことも今後の兵庫のサッカー界に明るい材料である。

決勝戦評……五嶋祐治郎（県技術委員）

どちらのチームが勝っても初優勝、総合体育大会初出場である。選手の個性、特徴を中心にチームの攻守を組みたてる御影工高、自チームの力量を知り攻守の方針を徹底させゲームをすすめる須磨高との対戦となった。

両チームとも前半やや堅さはあったが連戦の疲れもみせずスピーディにゲームをすすめた。

御影工高は、（CF水島、LW三好、RW祖母井）が胸のすくようなボレーシュートを決めたものである。ゲームはその後一進一退ですんだが、闘志を燃やしが最後は須磨高は前半のタイムアップ寸前の34分、CF山田からのパスをゴール前ヘスクリンしていたLW藤田が正面から決め同点においついた。

後半は、リラックスした須磨高がやや優勢に試合を展開したが、再三のシュートははずした。特に交替出場したMF塩田のロングシュートがバーに当たりはねかえるなど不運で得点出来なかった。一方御影工高もチームのコンビネーションがとれず決定的瞬間はなく延長戦になった。

10分10分の延長戦でも決まらずついに再延長となりゲームはこのまま引き分けかに思われた後半7分、ついに決勝点がうまれた。御影工高は交替出場していたRW井若からのセンターリングをLW三好がヘディングで決めた。そして初優勝を飾ったのである。

選手は連日の悪コンディションにもかかわらず最後まで健闘し、ベストをつくし、さわやかな高校生らしい印象を残してくれたことに賛辞をおくりたい。この実力が全国総合体育大会にどこまで通用するか、今後の指導、練習に期待したい。

雪辱果せるか神戸FCユース

＝ 全国クラブユース選手権大会 ＝

昭和55年度全国クラブユース選手権大会（日本サッカー協会後援）は7月24日から27日まで東京よみうりランドサッカー場で8チームが参加して行われる。試合は4チームずつ2組に分かれて予選リーグ戦を行い、上位で3位決定戦と決勝戦が行われる。

西日本からは枚方FC、愛知FC、神戸FCの3チームが出場する。神戸FCユースは一昨年は優勝したものの、昨年は決勝で読売クラブに0-1で惜敗し、今年こそはタイトル奪回と意欲を燃やしている。

同大会は協会の2種年齢に登録したいが、高体連加盟チームでない競技会に出場できないため1種（年齢制限なし）に登録して社会人、大学生と一緒にプレーしている全国のクラブユースチームが、お互いの技術向上を計るために4年前から始められ、53年度より日本協会が後援して行われるようになった。

参加チーム数は53年度4チーム、54年度8チーム、そして本年は東日本6チーム、西日本3チーム、計9チームになったため、東日本では初の地区予選を行うことになった。また競技レベルは非常に高く、読売、三菱、枚方、神戸はそれぞれ全日本ユースやその候補選手、あるいはセントラルトレーニングセンター出身の選手を多数擁し、これらの対戦ではスピード、センス、テクニック、体力ともにハイレベルのゲームを見ることができる。特に注目したいのは、これまで外国チームに劣っているといわれた対敵動作を考えた柔らかくスピーディーなボールコントロールや戦術的な工夫が見られることで、やはりクラブチームでは少年からユースまで一貫指導が容易で自由な雰囲気の中に個性豊かな選手が育ってくるということが確認できる。

さて、今春初の海外遠征を香港にして、香港スクールスポーツ協会選抜（日本の高体連選抜）をAが1-0、Bが2-0と撃破したKFCユースは、毎年県内のトップクラスを維持しているボーイズ（小学生）、ジュニア（中学生）の出身者でイレブンを固めただけに全員個人技がしっかりしている。長身でヘディングが強く攻撃的なセンターバックの主将松本を中心にした長谷川、今井のスリーバックは、高校サッカーにスウィーパーの必要性のないことを実証している。また、ロングパス、シュートの得意なトレセン組の井上とスピードあるドリブルのできる青木のハーフ陣、頭の良い佐藤、前田のインサイドフォワードの組む中盤は変化に富み、トップの小さなストライカー山下や戸尻、上林の両ウィングへ流れるようにつながる。W・Mフォーメーションながら全員攻撃全員守備のコンビネーションサッカーを身上とし、今春の天皇杯県大会、県リーグで好成績を残しており、同大会での活躍が大いに期待できそうだ。

55年度の主な成績

◇香港遠征	▷4月4日	KFCユースA	2-0	ラ・サール・カレッジ(香港1位)
		同 B	0-1	ワーヤン・カレッジ (香港4位)
	▷4月6日	同 A	1-0	香港学界体育総会選抜A
		同 B	2-0	同 B
◇天皇杯県大会	▷1回戦	KFCユースA	8-1	松本石油由良クラブ
	▷2回戦	同 A	6-0	三菱電機神戸
	▷3回戦	同 A	3-1	三菱電機伊丹
◇神戸市民大会	▷2回戦	KFCユースB	1-0	川重神戸
	▷3回戦	同 B	不戦勝	KFCシニアA
	▷4回戦	同 B	0-4	兵庫朝鮮
◇兵庫県前期	▷第1戦	KFCユースA	0-0	川重発本
	▷第2戦	同 A	4-0	三木FC
	▷第3戦	同 A	5-1	ユニオン・ロマンティカ
	▷第4戦	同 A	2-0	日本触介姫路
	▷第5戦	同 A	0-1	KFC1970
	▷第6戦	同 A	1-1	西淡クラブ



写真提供サッカーマガジン

▲昨年のクラブユース選手権より、神戸FCユース対読売SCユース

▼県リーグ昇格を決めた神戸FCユース 2月17日ポートアイランド球技場



神戸FCユースの主力メンバー ○は年齢

【監督】前野正〔コーチ〕加藤寛
【GK】橋本祐幸⑬ 溝口貴士⑬
【DF】長谷川利紘⑬ 松本国一⑬ 今井克宏⑬ 山田哲也⑬ 瀬川正二⑬
【MF】井上孝文⑬ 青木幸二⑬ 佐藤和雄⑬ 前田健雄⑬ 白沢久則⑬
【FW】戸尻誠⑬ 山下晴彦⑬ 上林賢一⑬
この外25人が協会に登録し、A・Bの2チームを編成している。

過去の成績

	53年度	54年度
1位	神戸FC	読売クラブ
2位	読売クラブ	神戸FC
3位	枚方FC	枚方FC
4位	三菱養和クラブ	三菱養和クラブ

神戸FCボーイズ堂々の優勝

全日本少年
兵庫県大会



6月29日 竜野中川原公園 準決勝 神戸FCボーイズ対地元揖保少年団

第4回全日本少年サッカー大会兵庫県大会は、6月22日、29日の両日竜野市中川原運動公園で102チームの中から勝ち残った9チームで争われた。決勝はKFCと西宮少年クラブの都市型チーム同志となり、一貫指導体制のもとに練習しているKFCが西宮を下し県代表に選ばれた。

今年の兵庫少年サッカー大会は、但馬地区が新規に加入し、9地区（東阪神14、西阪神17、神戸12、東播14、姫路13、北播6、淡路8、西播12、但馬6）の102チームが参加した来年は、川西地区が新たに加入する予定で参加チームが増えるため区域割りや試合方法等に研究の余地がありそうだ。

少年の県大会は毎年開催地を変えている。趣旨は、各地方の都市で開催することによりその都市が大会運営や、各地域の少年のゲームを見近かに見ることができ、サッカー関係者にとって喜ばしいことでありかつ少年サッカーの発展につながるからである。(52年尼崎

市、53年神戸市、54年明石市、55年竜野市、56年未定)

ともあれ少年サッカーは、学習塾、グラウンド難などいろいろな問題をかかえながら指導者、父兄、選手が一丸となってかかっている。この中で都市型チームであるKFCと西宮が決勝に勝ち残ったことは地方チームに大きな刺激となったであろう。

兵庫の代表チームが過去3回全国大会で東京へ行っているが一度も決勝リーグの8強に進出したことがない。今年のKFCは、サッカー王国兵庫の再建の一貫として設置されたのだから、その設立報告が徐々に実現されつつあるのではなからうか。この一貫指導のもとに育ちつつあるKFCが全国大会でどのような成績を挙げられるのか楽しみである。日頃の成果を十分発揮してもらいたい。

サッカーの演出者求む

顕木 新一 市サッカー協会審判委員長



神戸市に登録されている社会人チームは、強制的に3名以上の審判員を登録していただいております。しかし、その内積極的に協力していただいている審判員は、数えるほどしかおられません。その一方、試合数は毎年増え続け審判員を割り当てる担当者は、試合の前日まで引き受けて下さる方がなく、四苦八苦している現状です。現在、市リーグ、天皇杯予選、リーグカップ、市民大会等の試合の審判は、出場するチームで、自分達の出場する前後の試合を担当していただいております。恐らく、審判員になる方は、どのチーム内でも中心的プレーヤーであることと思います。したがって協会としても極力ひと試合は、あけて割り当てるようにしております。審判服を着変える間もないようでは、より良い審判を要求する事は、無理だと思えます。チームの中には、自分達の試合さえすれば、他の試合の審判は適当にやればよいという感じの非協力的チームが、間々ある様に思えます。その様なチームは、どうかすると、審判に不満を漏したり、問題を起こしたりするように思えます。上級審判員になるには、数多くの試合の審判をこなし、経験をより多く積む必要があります。私のようにプレーヤーとしては活躍出来なかったものでも、関西リーグや市民大会などの決勝戦を、審判員として御崎の

整備された芝の上で走ることが出来ます。サッカー選手であれば誰でも、一度は、青々とした芝の上でプレーするのが夢であるはずで、す。プレーヤーとしては、かなわなくとも、審判員としては、必ず可能な事です。先日、関西協会審判技術指導員第1回研究会が御崎で行われました。今後、協会審判部の組織を拡充し、審判技術の向上に力を、入れる所存です。上級審判を目指す方が、多く出て下さる様希望いたします。

先日の研究会の資料より一部紹介します。よい審判をするために
1. 審判員はいかにあるべきか
審判員は試合の演出者であり、ゲームを成立させる大きな要素である。審判意欲が旺盛でルールをよく研究し、優れた判断力で迅速に判断し競技者に信頼されるように、研究を重ね、審判割り当に対して積極的に責務を遂行すること。ルールを完全に把握することが正確さにつながり、数多く審判経験を積むことが自信につながる。自信に満ちた態度は、選手に安心感を与え、厳正中立な笛を吹く為の大変な勇気にもつながる。

2. 審判の心得
外見が競技者に及ぼす心理的影響は大きいので審判服（黒いジャージ、パンツ、ストッキング）の着用は言うまでもなく、シューズ

等も前もってよく手入れし、胸には必ず所定の審判胸章（ワッペン）をつける事。時計・笛、記録カード、鉛筆、警告(黄)、退場(赤)カード、トス用のコイン、ラインズマンのフラッグを持参すること、遅くとも試合開始30分前までに会場に到着し、競技規定の確認、例えば、競技時間、同点の時の処置（延長、PK方式トス）交代の人数等、そして主審と線審の打合せ、①主審の時計に時刻を合せ、タイムアップ前2～3分の合図、②線審の受け持つサイド及び交代選手のサイド、及びチェックを誰がするか、③スローインの監視の分担、④得点の時の合図、⑤主審の見えない違反の線審の合図、⑥直接ゴールをねらえるフリーキックの時の位置のとり方、⑦線審の合図に主審が採用しない時の合図、以上の事は最底確認し合せて下さい。私にも経験があります試合開始ぎりぎりに行き、打合せもせず、準備運動もせずに始め、2部と3部の試合時間を間違え5分早く終り、ハーフタイムの時に注意されたり、後半の途中で足がつりかけ早く終了しないかと青くなった事があります。試合前もですが、試合後の反省も大切な事です。自己反省とラインズマンの助言や第三者の提言や批評を積極的に聞き受けることが、上達につながる早道だと思います。